

# 乳幼児の生活環境と音楽に関する研究 (第2報)

曾我部 司 土谷 由美子  
Tsukasa Sogabe Yumiko Tsuchiya

## 研究目的

乳幼児が日頃口ずさんでいる歌(音楽)をよく耳にするが、果して生活環境と音楽はどのような関係にあるのか、昔と違い現代における高度経済成長に伴い、TV、ビデオ、オーディオ、ピアノ等の普及、また、宅地造成により子供の遊び場の減少、ゲームウォッチ、ファミリーコンピューターなど高価玩具の流行、兄弟も少なく、塾通い等で遊び時間も著しく減少したと思う。こうした生活環境の中において、今回は父母の年齢と子供の遊び、音楽はどのような関係にあるのか、実態調査の結果を研究報告したいと思う。

## 研究方法

### 1 調査対象

中国短期大学周辺の乳幼児590名 ※若干広島、東京を含む。

### 2 調査時期

昭和59年7月～9月

### 3 調査方法

保護者に対するアンケート調査による。

### 4 配布及び回収

配布数830枚

回収数622枚

有効回答数590枚(有効回答率71.1%)

### 5 調査項目

生活環境(①父母の年齢 ②父母の年齢と子供の遊び ③父母の年齢と子供の遊び相手)

音楽に関する項目(①父母の好き嫌い ②父母の好きな歌 ③子供の好きな歌と父母の関係)

## 結果及び考察

調査人数内訳は表1のとおりで男児282名、女児308名、計590名である。

表1 調査人数内訳

(人)

年齢 性	0~1才	2才	3才	4才	5才	6才	計
男	25	37	27	60	87	46	282
女	40	34	47	48	87	52	308
計	65	71	74	108	174	98	590

生活環境

①父母の年齢

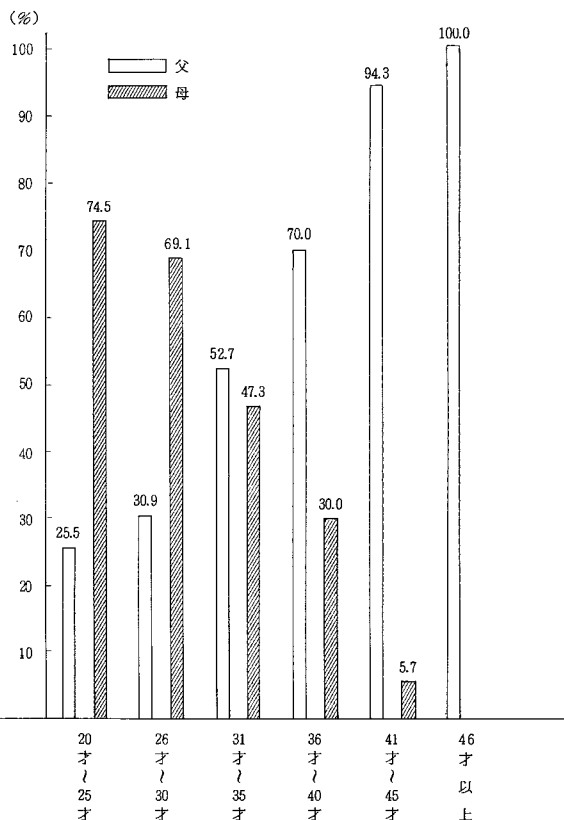
表2 父母の年齢

(%)

表2のとおりで、全体では父、母とも50%前後とほぼ同率である。これを図1でみると、加齢とともに父の率が上

年齢 性	全体	20才~ 25才	26才~ 30才	31才~ 35才	36才~ 40才	41才~ 45才	46才以上
父	49.4	25.5	30.9	52.7	70.0	94.3	100.0
母	50.1	74.5	69.1	47.3	30.0	5.7	0.0
計	100.0 (1,173人)	100.0 (51人)	100.0 (330人)	100.0 (539人)	100.0 (217人)	100.0 (35人)	100.0 (1人)
$\chi^2$ 検定	—	P < 0.001					

昇し、母はこの逆である。年代別では31才~35才がほぼ同率を示している。やはりこれは夫婦の間に年齢差があり、一般的には夫より妻の年齢が低いという傾向であろう。



② 父母の年齢と子供の好きな遊び

父、母とも親の年齢と子供の好きな遊びには有意差はみられない。(表3,表4)

父、母の年齢にかかわらず、子供の好きな遊びは体全体をつかう遊び、遊具をつかって遊ぶ子が多いようである。

図1 父母の年齢

表3 父の年令と子供の好きな遊び

	全 体	20才～ 25才	26才～ 30才	31才～ 35才	36才～ 40才	41才～ 45才	46才以上
体全体をつかう遊び	19.6	31.1	17.8	18.6	21.2	22.7	0
玩具をつかって遊ぶ	15.1	20.7	18.2	15.2	12.3	15.9	0
遊具をつかって遊ぶ	19.5	10.3	17.4	20.0	20.5	18.2	33.3
物をつくって遊ぶ	17.3	13.8	18.6	17.7	17.3	10.2	33.3
ひとりで遊ぶ	15.9	13.8	17.4	14.7	16.1	21.6	33.3
大勢で遊ぶ	12.7	10.3	10.6	13.8	12.6	11.4	0
計	100.0 (1,568人)	100.0 (29人)	100.0 (264人)	100.0 (769人)	100.0 (415人)	100.0 (88人)	100.0 (3人)
$\chi^2$ 検定	有意差なし						

表4 母の年令と子供の好きな遊び

	全 体	20才～ 25才	26才～ 30才	31才～ 35才	36才～ 40才	41才～ 46才
体全体をつかう遊び	19.6	21.7	18.9	19.0	23.5	0
玩具をつかって遊ぶ	14.9	26.5	15.6	13.8	11.7	20.0
遊具をつかって遊ぶ	19.4	13.3	18.3	20.3	21.8	40.0
物をつくって遊ぶ	17.3	15.7	18.3	17.8	12.8	20.0
ひとりで遊ぶ	16.1	15.7	15.3	16.2	18.4	20.0
大勢で遊ぶ	12.7	7.1	13.6	12.9	11.8	0
計	100.0 (1,579人)	100.0 (83人)	100.0 (608人)	100.0 (704人)	100.0 (179人)	100.0 (4人)
$\chi^2$ 検定	有意差なし					

③父母の年令と子供の遊び相手

父親との関係を表5でみてみると、全体では1位が同年令の子供と遊ぶ、次いで兄弟、父母、年上の子供、ひとり遊び、祖父母、年下の子供と遊ぶの順である。これを図2に表わすと、同年令の子供と

表5 父の年令と子供の遊び相手

遊び相手	母の年令	全 体	20才～ 25才	26才～ 30才	31才～ 35才	36才～ 40才	41才～ 45才	46才以上
同年令の子供		29.6	22.5	28.2	31.6	30.7	25.0	0.0
年上の子ども		10.1	1.6	12.4	10.0	7.9	0.0	0.0
年下の子ども		3.9	3.2	2.8	4.9	4.4	0.0	0.0
父 母		12.8	37.1	13.7	9.1	10.5	25.0	0.0
祖 父 母		6.3	14.5	7.6	4.9	3.5	0.0	0.0
兄 弟 (姉 妹)		30.4	11.3	27.4	32.5	34.2	25.0	0.0
ひ と り で		7.9	9.7	7.9	7.0	8.8	25.0	0.0
計		100.0	100.0 (62人)	100.0 (394人)	100.0 (452人)	100.0 (114人)	100.0 (4人)	0.0
$\chi^2$ 検定		P<0.001						

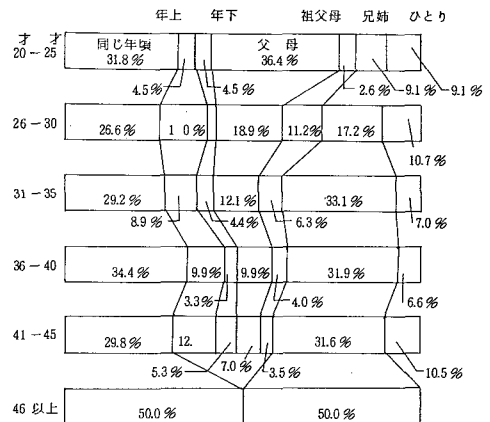


図2 父の年令と子供の遊び相手

遊ぶ子は父のどの年代においても平均している。父母と遊ぶ子は父の加齢とともに減少し、兄弟と遊ぶ子はこの逆の現象である。これはやはり若い父親ほど子供の年令も低く、父母と遊ぶ子の率が高いのであろう。兄弟と遊ぶ子は父親の年令が31才～35才で急に上昇し、46才以上では同年令、兄弟と遊ぶ子の二種類に分れている。

母親との関係は表6と図3のとおりで、父親との関係とよく似ていて、やはり同年令、父母、兄弟と遊ぶ子が大半を占めている。

表6 母の年令と子供の遊び相手

遊び相手	父の年令	全 体	20才～ 25才	26才～ 30才	31才～ 35才	36才～ 40才	41才～ 45才	46才以上
同年令の子供		29.8	31.8	26.6	28.2	34.4	29.8	50.0
年上の子ども		9.9	4.5	13.0	8.9	9.9	12.3	0.0
年下の子ども		3.8	4.5	2.4	4.4	3.3	5.3	0.0
父 母		12.9	36.4	18.9	12.1	9.9	7.0	0.0
祖 父 母		6.3	4.6	11.2	6.3	4.0	3.5	0.0
兄 弟 (姉 妹)		29.5	9.1	17.2	33.1	31.9	31.6	50.0
ひ と り で		7.8	9.1	10.7	7.0	6.6	10.5	0.0
計		100.0	100.0 (1,019人)	100.0 (22人)	100.0 (169人)	100.0 (496人)	100.0 (273人)	100.0 (57人)
$\chi^2$ 検定		P<0.001						

父、母の関係いずれも子供の遊び相手は、同年令、兄弟と遊ぶ子が全体の遊び相手のおよそ60%を占めていることがわかる。表5、表6で示されているように、父母の年齢が低いほど父母とよく遊び、父母の加齢とともに兄弟と遊んでいることがわかる。父母の加齢とともに子供の年齢も上がっているためであろう。

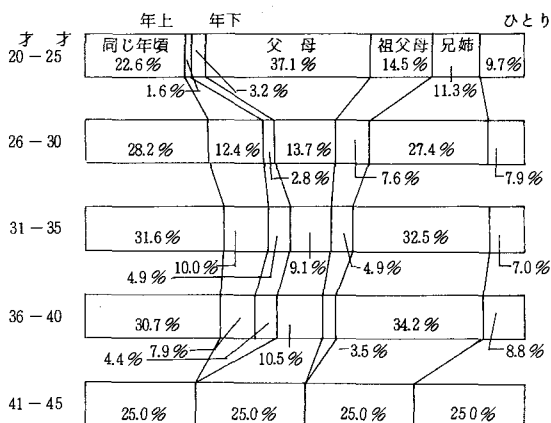


図3 母の年齢と子供の遊び相手

2 音楽に関する項目

① 父母の音楽の好き嫌い (表7)

音楽の好きな父親は、26才～30才の66.7%を最高に41才～45才の36.4%まで減少し、ふつうは逆に26才～30才より41才～45才まで上昇している。これを図4に表わしてみた。若い年代の父親ほど音楽を好み、年齢が高くなるにつれてふつうが高率を占めている。母においては有意差がみられないので、表8に上げておくにとどめる。

表7 父の音楽の好き嫌い

父の年齢 好き嫌い	父の年齢 (才)						
	全体	20才～25才	26才～30才	31才～35才	36才～40才	41才～45才	46才以上
好き	52.6	61.5	66.7	56.3	38.8	36.4	100.0
嫌い	3.6	0.0	2.9	2.8	5.9	3.0	0.0
ふつう	43.8	38.5	30.4	40.9	55.3	60.6	0.0
計	100.0 (585人)	100.0 (13人)	100.0 (102人)	100.0 (284人)	100.0 (152人)	100.0 (33人)	100.0 (1人)
χ <sup>2</sup> 検定	-	P < 0.01					

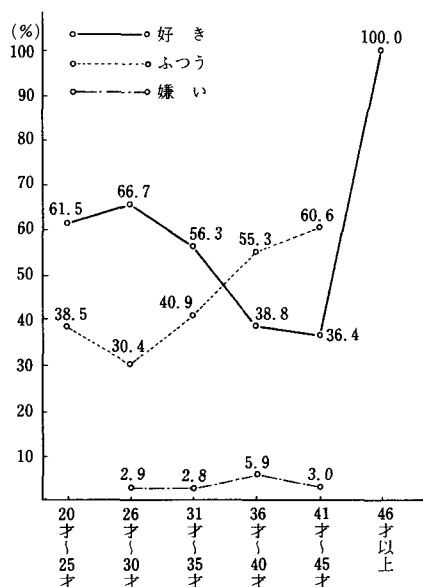


図4 父の音楽好き嫌い

表8 母の音楽の好き嫌い

母の年齢 好き嫌い	母の年齢 (才)					
	全体	20才～25才	26才～30才	31才～35才	36才～40才	41才～45才
好き	62.4	57.9	64.0	61.2	63.1	100.0
嫌い	1.5	0.0	2.6	0.8	1.5	0.0
ふつう	36.1	42.1	33.4	38.0	35.4	0.0
計	100.0 (588人)	100.0 (38人)	100.0 (228人)	100.0 (255人)	100.0 (65人)	100.0 (2人)
χ <sup>2</sup> 検定	-	有意差なし				

② 父母の好きな歌

表9のとおりで、まず父親はどういった歌を好んでいるのか、父親の好きな歌の全体では、第1位が演歌、歌謡曲で、次いでポピュラー、フォークソング、クラシック、ジャズ、民謡の順である。

これを図5でみてみると、20才～25才の若い父親には演歌、民謡の好きな者はいなく、26才～30才より41才～45才まで加齢とともに演歌の好きな者が増えている。民謡もだいたいこの傾向にある。26才～30才の演歌18.1%に比べ41才～45才の演歌は35.0%とおよそ2倍の率になっている。

この逆がフォークソングで年齢の増加とともに減少している。ポピュラーにおいても26才～30才を最高にこの傾向にある。以外にクラシックが加齢とともに上昇している、45才までの父親の中で、どの年代とわらず人気を保っているのが歌謡曲ということになる。

母親においては表10によって、全体では1位がフォークソング、次いで歌謡曲、ポピュラー、クラシック、演歌、民謡の順である。図6でみると、父親に比べ演歌の率が極端に減少していることがわかる。人気No.1のフォークソングは36才～40才の16.7%は低めではあるが、あとの世代ではおおよそ30%前後と高率を示し、歌謡曲においては父親と同じく安定した人気を保っている。以上男女の好きな歌にははっきり好みの違いが感じられる。

表9 父の好きな歌

好きな音楽	父の年齢						
	全体	20才～25才	26才～30才	31才～35才	36才～40才	41才～45才	46才以上
クラシック	11.0	7.1	8.6	9.6	15.2	20.0	50.0
ポピュラー	17.8	14.3	23.8	18.5	12.1	5.0	50.0
フォーク	14.9	35.7	21.0	13.3	12.1	5.0	0.0
ジャズ	4.1	7.1	1.9	4.0	6.1	5.0	0.0
演歌	25.0	0.0	18.1	26.5	30.3	35.0	0.0
民謡	2.2	0.0	1.9	1.6	3.0	10.0	0.0
歌謡曲	25.0	35.8	24.7	26.5	21.2	20.0	0.0
計	100.0 (489人)	100.0 (14人)	100.0 (105人)	100.0 (249人)	100.0 (99人)	100.0 (20人)	100.0 (2人)
χ <sup>2</sup> 検定	-	P<0.1					

表10 母の好きな歌

好きな音楽	母の年齢						
	全体	20才～25才	26才～30才	31才～35才	36才～40才	41才～45才	
クラシック	11.0	5.7	10.6	9.9	19.4	0.0	
ポピュラー	22.0	20.0	19.2	23.2	29.2	0.0	
フォーク	27.3	28.6	29.8	27.8	16.7	33.3	
ジャズ	2.4	2.9	3.3	1.9	1.4	0.0	
演歌	9.2	5.7	7.3	10.6	11.1	33.3	
民謡	1.5	0.0	0.8	0.8	6.9	0.0	
歌謡曲	26.6	37.1	29.0	25.9	15.3	33.3	
計	100.0 (618人)	100.0 (35人)	100.0 (245人)	100.0 (263人)	100.0 (72人)	99.9 (3人)	
χ <sup>2</sup> 検定	-	P<0.02					

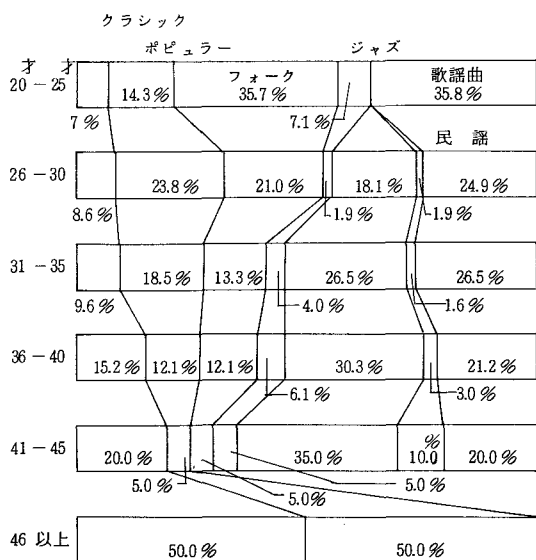


図5 父の好きな歌

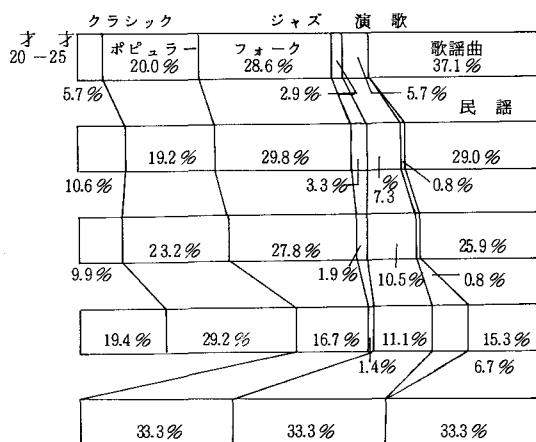


図6 母の好きな歌

③子供の好きな歌と父母の関係

父親の年令とその子供の好きな歌はどのような関係にあるのか、表8にみられるように子供の好きな歌の全体では、童謡、アニメの主題歌がおよそ80%を占めていることがわかる。これを図7に表わしてみると、父親の20才～25才の子供の童謡好みは13.3%と低いですが、26才～30才よりほぼ40%を越えていて高率を示している。またアニメの主題歌は父親の加令とともに上昇している。これは、やはり父親の加令とともに子供の年令も上がっているため、テレビのマンガ番組を見ているせいであろう。

この逆が商業ソングで、父の加令とともに減少している。これは若い父親の子供、すなわち低年令の子どもでも商業ソングは短かく、メロディーも簡単で、ブラウン管より一日に何度も何度も耳に入ってくるため興味を示すのであろう。

フォークソングの好きな子どもは、父親が26才～30才、31才～35才、41才～45才にわずかに現われている。

次に子どもの好きな歌と父親の好きな歌はどのような関係にあるのか調べてみたが、これには有意な差が出ていないため、参考までに表12に数字を上げるだけにとどめておく。

次に母親との関係では、子供の好きな歌と母親の年令には有意差がなかったため、こどもでも表13に数字を上げるだけにとどめた。

子供が好む歌のその母親はどういった歌を好むのか、これは表14のとおりで、やはり母親の音楽の好みのどの分野においても、子どもは童謡、アニメの主題歌を好きなようである。これを図8でみると、78.3%とおよそ8割近くが童謡、アニメの主題歌で占めており、好きな分野で見ると、演歌の好きな母親の子どもは童謡が34.6%と最低率で、アニメの主題歌が44.9%と最高率を示している。

また、民謡の好きな母親の子どもは、21.4%と商業ソングの中では高率を示している。母親

表11 子供の好きな歌と父親の関係

区分 子供の好きな歌	父親の年令						
	全体	20才～25才	26才～30才	31才～35才	36才～40才	41才～45才	46才以上
童謡	41.2	13.3	40.2	40.1	48.0	39.5	50.0
アニメ	37.0	26.7	33.0	37.4	39.2	39.5	50.0
商業ソング	10.4	33.3	11.6	10.2	9.5	2.6	0.0
歌謡曲	10.2	26.7	12.5	11.1	3.3	15.8	0.0
フォーク	0.8	0.0	2.7	0.3	0.0	2.6	0.0
その他	0.5	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
計	100.0 (657人)	100.0 (15人)	100.0 (112人)	100.0 (342人)	100.0 (148人)	100.0 (38人)	100.0 (2人)
検定	P<0.05						

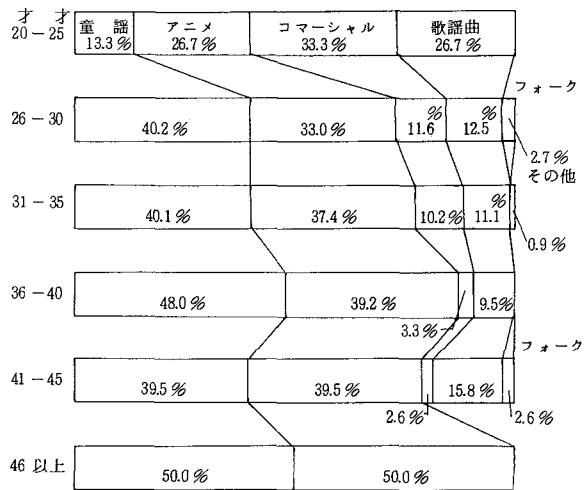


図7 子供の好きな歌と父親の年令

表12 子供の好きな歌と父親の好きな歌

父親の好きな歌 子供の好きな歌	全体	クラシック	ポピュラー	フォークソング	ジャズ	演歌	民謡	歌謡曲
童謡	40.8	50.0	43.2	38.9	50.0	38.7	50.0	36.8
アニメの主題歌	35.6	30.6	34.7	36.8	29.2	34.8	31.3	39.1
商業ソング	12.0	9.8	12.7	15.8	16.7	11.0	12.5	10.3
歌謡曲	10.4	4.8	7.6	8.5	4.1	14.3	6.2	13.2
フォークソング	0.9	4.8	1.8	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0
その他	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6
計	100.0 (644人)	100.0 (82人)	100.0 (118人)	100.0 (36人)	100.0 (24人)	100.0 (155人)	100.0 (16人)	100.0 (174人)
検定	有意差なし							

の歌謡曲好みの子どもは16.4%とやはり歌謡曲の中ではトップの率になっていることがわかる。

表13 子供の好きな歌と母親の関係

子供の好きな歌	母の年齢						全 体
	20才～ 25才	26才～ 30才	31才～ 35才	36才～ 40才	41才～ 45才		
童 謡	29.7	41.7	43.3	44.0	56.7	41.8	
アニメの主題歌	27.0	37.5	36.6	37.3	33.3	36.5	
コマーシャルソング	16.2	10.2	12.2	10.7	0.0	11.2	
歌 謡 曲	24.3	9.5	7.3	6.7	0.0	9.4	
フォークソング	0.0	1.1	0.0	1.3	0.0	0.7	
そ の 他	2.8	0.0	0.6	0.0	0.0	0.4	
計	100.0 ( 37人)	100.0 (264人)	100.0 (164人)	100.0 ( 75人)	100.0 ( 2人)	100.0 (542人)	
$\chi^2$ 検 定	有意差なし						

表14 母親の好きな歌

区分 子供の好きな歌	母親の好きな歌							
	全 体	クラシッ ク	ポピュ ラ	フォーク	ジャズ	演 歌	民 謡	歌謡曲
童 謡	41.6	45.7	48.4	41.4	45.8	34.6	42.9	36.4
ア ニ メ	36.7	34.0	34.9	36.3	33.3	44.9	28.6	37.7
コマーシャル	9.3	10.6	8.1	11.0	8.3	5.1	21.4	8.7
歌 謡 曲	11.0	6.4	7.0	11.0	8.3	11.5	7.1	16.4
フォーク	0.9	3.3	1.6	0.3	4.3	1.3	0.0	0.0
そ の 他	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.8
計	100.0 (864人)	100.0 ( 94人)	100.0 (186人)	100.0 (237人)	100.0 ( 24人)	100.0 ( 78人)	100.0 ( 14人)	100.0 (231人)
$\chi^2$ 検 定	P<0.05							

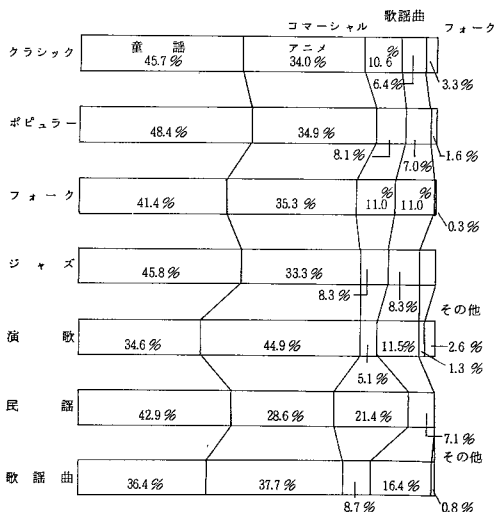


図8 子供の好きな歌と母親の歌

## ま と め

以上の結果、父母とも音楽の嫌いな人はほとんどいなく、母親の方が父親よりも音楽が好きなのである。この傾向は第1報で調査した子どもの音楽好き嫌いについても同様の結果が出ており、男児よりも女兒の方に好きという率が高かった。

子どもの好きな遊びでは、父母の年齢をとわず体全体をつかう遊び、玩具をつかう遊びが多く、遊び相手においては、同年令の子どもと遊ぶ、兄弟と遊ぶ子が多く、同年令と遊ぶ、というのは、これはやはり体力もほぼ等しく、保育所、幼稚園での延長で遊ぶこと、兄弟は家庭内では同じ環境、一諸にいる生活時間も長いためではないだろうか。

父母の音楽の好みにははっきりと差があり、母親に比べ父親の方に圧倒的に演歌の好みが多いのは、やはり最近のカラオケブームの影響や、演歌は哀愁を帯びており、お酒を飲みながらそれに耳を傾ける、また歌うという日本人の傾向ではないだろうか。また、子どもの好きな歌の上位を独占しているの

は父母の年齢、父母の好きな歌の好みの影響を受けなく、童謡、アニメの主題歌である。

このように子どもは、友達と遊び、影響を受けあいながら成長し、ひいては日頃口ずさむ歌（音楽）も相互に無関係ではないと思う。多種の歌が子どもの口から聞えてくるが、この歌は良い、悪いとはいえないし、我々音楽教育者が方向づけるべきものではないと思う。限りない可能性を秘めた幼児に対し、この研究を参考に将来幼児教育者を目ざしている学生とともに学び、教育していきたいと考えている。

稿を終えるにあたり、本研究のデータ解析にご指導、ご協力下さいました中国短期大学、中谷青三郎先生に深く感謝致します。

## 参 考 文 献

全国社会福祉協議会全国保育協議会：保育所に入所している子どもの生活実態調査（調査結果報告書）昭和59年1月

曾我部 司，土谷由美子：「乳幼児の生活環境と音楽に関する研究第1報」

中国短期大学紀要第16号

曾我部 司，土谷由美子：「乳幼児の生活環境と音楽に関する研究第3報」

岡山県大学音楽研究学会第14回大会研究論文集

曾我部 司，土谷由美子：「乳幼児の生活環境と音楽に関する研究第4報」

中・四国大学音楽研究学会第1回大会研究論文集

〈付記〉

本論文は、昭和60年度中国短期大学特別研究費を受けたものであり、全国保母養成協議会、第24回研究大会（昭和60年11月9日）において、口頭発表した。